

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	グループホームひだまり	3階	
所在地	和歌山県海南市下津町方498-25		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3071100279-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3071100279-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成26年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気つくりと、利用者、職員ともに笑顔で明るく穏やかな日常を送れるよう支援しています。また、個人のニーズを把握し、個別援助を行うことで、残存機能を落とさず生活できるようにしています。季節を感じられる行事を盛り込み楽しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の1階にデイサービスが併設されており、2階・3階がグループホームとなっている。職員は常に笑顔で接することを心がけ、自由な雰囲気のなかで、利用者が明るい気持ちで安心して過ごすことができるよう取り組んでいる。食事のときも、利用者と職員が共にテーブルを囲み会話を楽しんでいる。利用者ができることを大切にして、その人らしく生活できるように、職員間でミーティングを重ねて工夫し、一人ひとりに気配りがなされている。日常的な散歩や買い物、ドライブなどの外出支援の他にも、回転寿司、水族館、花見なども計画して実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づいた介護サービスが提供できるよう、スタッフ会議または申し送り等で様々な意見を出し合い、サービスの向上に努めている。	笑顔に重きをおいた理念が掲げられ、利用者の笑顔を引き出せるよう会議でも意見を出し合い、職員間で共通認識を持って、寄り添って支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の重度化に伴い、日常的な交流は取れていないが、近所のスーパーへの買い物時や地域の方々が慰問に来られた際など交流する機会を設けています。	地域住民に向けて、介護者教室を開いて参加を呼びかけている。まわりに民家が少なく、近隣の人と日常的に交流する機会は少ないが、スーパーへの買い物や外食など、地域とつながる機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回デイサービスと共に地域介護者教室を開催し、認知症についての講義を行うことで理解を深めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来るだけ多くの家族様が参加して頂ける様、毎回内容を考慮し、意見を聞くことでサービスの向上に繋げています。	消防訓練や看取りの指針など最新の取り組みを報告して事業所の現状を伝えて意見交換し、運営に活かそうとしている。	地域の人や家族の参加のきっかけとなるよう、旬の話題をテーマに外部から講師を招くなどの試みや工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会への参加以外では、制度やサービスに関する問題点など分からないことがあれば、相談させていただいています。	運営推進会議に市の担当者の参加が得られており、事業所の現状を伝え、意見交換している。連携を深めており、問題点について日常的に相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は利用者の希望時のみ開錠させていただいています。家族様の手承を得て夜間のみベッド柵をさせて頂いている方もおられます。	ドアを開けるとすぐ階段という建物の構造上、安全面に配慮してユニットの玄関に施錠をしているが、利用者に寄り添い、心理的な負担を与えないように気をつけている。言葉による拘束についても、職員間で気づいた時に注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して職員全員が虐待防止について理解し防止に努めています。	/	/

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が1名おられるので、職員全員がその制度について理解し支援するよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際は、家族様が納得していただけるよう十分な時間をかけて説明を行い、家族様の要望や疑問点なども合わせて尋ねています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2カ月に一度運営推進委員会を行い、家族様や関係各所に参加を募っている。委員会で出された意見等はスタッフ会議で取り上げ、職員間でも共有しサービスの向上に繋がっている。	信頼関係作りには留意して、家族の訪問時や電話連絡などで、利用者の変化や対応についても随時話し合っている。出された意見や要望は迅速に検討し、利用者の生活に活かせるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて業務や利用者に関することなど様々な問題点を取り上げ、職員個々の意見や提案を出し合っている。	個々の職員が目標を持って取り組み、一日の締めくくりのスタッフ会議で意見を出し合っており、サービス向上につなげている。管理者は職員の意見や要望を聞き、運営に取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて職員個々の目標や考え方を把握し、それに応じた取り組みが出来るよう就労環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部署内で行う勉強会の他に法人内外で開催される講座、研修会にはなるべく多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加や同法人のグループホームとの相互実習等の活動を通して個々のスキルアップとサービスの向上に繋がっています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	年代別は背景シートなどを用い、ご本人様、家族様から生活上での要望や身体状況、病歴、生活歴等の聞き取りを密に行うことで、本人様が安心して暮らして頂ける体制を事前に整えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の要望のみに捉われず、家族様の気持ちや要望にもしっかりと傾聴し受け止めることで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様からの聞き取りから、求められるニーズを確実に引き出し、それに応じたサービスを他サービスも含めて考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務のみならず、利用者様と生活を共にする立場で接することで、暮らしの中の問題点の抽出や信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者様の様子や状態の報告等の連絡をこまめに取り、家族様からアドバイスや意見を頂くことで、共に支えあっていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の方も面会に来られており、馴染みの関係が保たれるよう支援しています。	1階のデイサービスを利用する知人と話して話ができるよう支援している。近くのスーパーへの買い物は、地域で馴染みの人と会う機会ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や生活環境に合わせ、リビングの座席の位置を配慮したり、利用者同士のコミュニケーションがスムーズに取れる様支援しています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人を退所後も要望があれば積極的に相談に応じ、より良い関係を継続できる様努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動を生活シートに拾い上げ、それらからニーズを抽出しケアプランに反映させています。	利用者の意向に沿った暮らしができるよう、利用者の言葉に耳を傾け、生活シートを活用して記録し、職員間で共有して、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力の下、年代別背景シートやセンター方式を用いてこれまでの生活歴を把握し、課題解決に向けての取り組みに繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活シートにて個々の生活パターンや残存能力を読み取り、自立生活に向けた支援に取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いにおいてニーズや課題を明確にした上で、処遇会議にてスタッフの考えや意見を出し合い、対応策等を含めた介護計画を作成しています。	高齢化に伴う利用者の変化に合わせた支援ができるよう、日々の生活シートをもとに家族、職員で話し合って計画を作成している。職員は生活シートに利用者の小さな変化もとらえて記録するようにしている。	利用者の経過が分かるように、以前の介護計画も、モニタリングと一緒にファイルに綴じておくことが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の職員間の申し送りの他に申し送りノートを活用し、情報の共有化を図っています。生活シートに利用者の状態の変化や気づきを記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態の変化に柔軟に対応できる様、針灸や訪問歯科、訪問看護等サービスの多様化を図っています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の幼稚園・保育園やよさこい踊りチームの慰問や中学生の職場体験受け入れなど、地域との触れ合いを大切にし、楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族が希望される医師に診て頂き、日頃から密に連絡を取り連携強化に努めています。	事業所の協力医療機関以外のかかりつけ医とも連携できているので、以前からのかかりつけ医での医療を受ける利用者も多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護師に24時間相談、対応して頂ける様連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や関係病院には日頃から相談等に乗って頂き、連携の強化に努めています。入院時は随時入院先に連絡を取り、状態の把握を心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族を含め他部署や医療関係者と連携を図り、本人・家族の考えを尊重した対応を取っています。	法人の方針でもあり、今までに看取りの経験はなく、重度化や終末期は入院や施設入所となっている。今後希望があった場合は、家族や医療機関の協力が得られれば、できる限り対応していく方向で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回消防署立会いの下、救命救急訓練を実施しています。あらゆる事態に備えた緊急時対応マニュアルを作成し、随時見直しを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練において、消防署指導の下避難経路の確認や誘導訓練を行っています。全職員が避難方法を把握できるよう災害時マニュアルや消防組織編成表を作成しています。	職員全員が利用者の避難誘導を身につけられるよう、年に2回の防災訓練を実施している。その中で見えてきた課題をみんなで意見交換し、より良い避難方法の共有を図っている。	

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、人生の諸先輩であることを常に念頭に置き、失礼の無い対応を心がけています。	一人ひとりの利用者を尊重し、日常生活の中で伝わりやすい言葉を選び、丁寧に声かけするように心がけている。トイレは鍵がかからないように細工してあるので、使用中にドアを開けてしまうこともある。	安全面に配慮しながらも、羞恥心やプライバシーに配慮して、安心してトイレを利用できるような鍵の検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや食事内容に選択肢を設け、本人に自己決定して頂ける様働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを最優先し、希望に沿った生活を送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月に来られる散髪ボランティアさんの協力の他、お化粧品やネイルアートを実施し、お洒落を楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や味見から後片付けまで利用者の能力に応じて一緒に参加して頂き、食事を楽しんで頂いています。	利用者の希望も聞いて献立を決め、近くのスーパーと一緒に買い物に出かけている。盆やテーブルを拭いたりなど、準備や片付けのなかでも一人ひとりのできる力を引き出し、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活シートにて分量や食事量を把握するよう努めています。水分はコーヒーやジュースなど数種類用意しており、好みに応じて自由に選んで頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや歯ブラシの声掛けを行い、衛生保持に努めています。週に一度ポリデントにて入歯の洗浄を行っています。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間生活シートや排泄チェック表などで個々の排泄パターンを把握しており、それに応じてトイレ誘導やおむつ交換などを行っている。	トイレで排泄できることを大切に、利用者の状態に応じて誘導している。下着の交換も自尊心に配慮して対応している。廊下に「トイレ」と表示しているが場所の間違いもみられる。	トイレの表示を工夫し、漢字で「便所」と表示したり、イラストで表示したりして、よりわかりやすくする工夫が望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の状況を把握しており、便秘時などに備えて服薬での調節の他、水分強化や消化の良い繊維物などの食材を多く提供するよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間帯や曜日に入浴して頂ける様努めています。利用者の状況に応じて職員二人での入浴介助も行っています。	利用者の希望する時間に入浴している。入浴を拒否する利用者には、本人の様子を見て一番に声をかけるなど、一人ひとりに合わせた対応で、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に応じて入眠を促すタイミングを考慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個別の服薬シートを作成しており、薬の目的や作用等が把握し易いよう工夫している。服薬時の状態や時間は生活シートに記入し、変化の早期確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の嗜好を取り入れたレクリエーションや行事、体操等を実施し、自由に参加して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物や散歩、ドライブなど希望に応じて支援させて頂くように努めています。リフト付きの車を使用することで車椅子の方も不自由なく参加して頂いています。家族様にも外出支援の協力をして頂いています。	近隣の散歩コースは車の往来も少なく、ゆったりと散歩を楽しむことができる。回転寿司や水族館にでかけたり、買い物やドライブなど、戸外に出る機会が多く持てるよう取り組んでいる。	

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物などの外出支援等で、本人の希望されるものを所持金内で自由に購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて電話の取次や手紙のやり取りの支援をさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは自然光を多く取り入れられる様、窓の配置がなされており、それに応じてテーブルや椅子の配置も考えています。ベランダでは四季折々の草花や野菜を利用者の方と一緒に育てています。	台所、リビングがゆったりとした共有空間となっている。ソファでくつろいだり、景色が一望でき、季節感が感じられる畳の部屋でゴロンと寝そべることもできる。2階の広いバルコニーでバーベキューを楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席配置は気の合う方同士で座って頂いています。リビングでは思い思い好きな場所に自由に座って頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅にて使用してきたものをそのままお使いいただくことで、落ち着いた暮らしができる様配慮しています。	収納スペースが広く居室内も広くゆったりしている。一人ひとりが気に入ったものを自由に持ち込み、その人らしい居室となっている。畳の居室もあり、気のあった数人の利用者が一緒に過ごすこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残存能力を十分に生かされるよう、居室内やリビングなどの配置を考えている。		